

## 未来へつなぐ vol.19 | 三富タミエ |

さいたま商工会議所 中央支部長  
三国水材(株) 代表取締役会長命と暮らしに必要な  
「水」を通じて地域を支える

日々の快適な暮らしに欠かせない上下水道工事に用いられる、水道管や接手部品などを扱う商社として、中央区で創業60年を超える三国水材(株)。高度経済成長期に会社を興した先代から、二代目・三富タミエ会長、三代目・三富俊之社長へと受け継がれる、事業と地域貢献への想いを伺いました。

## 三富 タミエ (みとみ たみえ)

1948年、東京都目黒区生まれ。家業である三国水材(株)へ入社し、1990年、2代目の代表取締役社長に就任。2016年に取締役会長となる。2022年からさいたま商工会議所中央支部支部長に就任し、中央区の商工業の振興発展・連携強化に尽力。

写真左は息子であり代表取締役社長の三富俊之氏。

### インフラに関わる日々の業務で 安心・安全な社会に貢献

三国水材(株)は、私の父が1960年に創業した会社です。父は戦争から帰ってきて、埼玉県南水道企業団(現・さいたま市水道局)で、定年1年前まで勤めました。

戦火に遭った国土、特に首都圏を復興すべく日本中が湧いていた時期ですから、インフラに関わる仕事はやりがいがあったのでしょう。退職後、水道管をはじめとする上・下水道工事資材全般、いわゆる「水材」を扱う卸売商社を立ち上げたわけです。

戦争の影響もあったのか、晩年の父は健康を損ねることが多く、私は専らそのサポートという形で家業に携わるようになりました。父の送り迎えをしたり、社長代理として決済印を預かったり、各種クラブの活動に参加したりといった経験が、思えば1990年に事業承継するための準備期間になったように感じます。

「ライフラインに関わる仕事は食いつぶれがない。その分ちゃんとお客様や地域に感謝しなくてはいけないんだ」と父はよく言っていました。経営者になって改めて実感しましたが、インフラ整備というのは工事で終わりではなく、適切に維持していかなければいけません。特に水は、命と暮らしを支える必要不可欠な資源ですから、業務がそのまま社会貢献になるといいでしょう。

近年は地震や水害などの災害も増えているため、緊急・災害用の資材供給なども担っており、安心・安全な暮らしを支える当社の存在意義が高まっていると感じています。

### 見えない場所で評価される 技術力・対応力

当社の強みはただ単に資材を卸すだけでなく、設計図に応じてサイズや長さなどに対応できることです。現場では、オーダー通りに準備された資材を施工するだけでいい。この便利さが、多くの建設業者さんに選ばれている理由でしょう。

水道や電気関係の設備は、どんな土木建設の場でもいちばん最初に整備しなくてはなりません。最終的には地中や建物の地下に埋まってしまうので、目に見える機会はありませんが、ここがきちんとしていないと始まらないという意味で、本当

に「根幹」を支える仕事なのです。

最近、古い耐震基準で施工された施設やビルの補強・交換工事などが増えています。現在のようにコンピュータソフトで設計されているわけではありませんし、当時の資料が残っていないケースも多い。だから、どんな資材で、どんな配管で、どんな工事をしているかは、掘ってみないと分からないことも多々あります。

こうした事態に備えて、多くのメーカーと取り引きし、柔軟に対応できる力を養うことが重要なのだと思います。

### 人材育成・労務環境の改善を 次世代に託して

仕事はある、しかし労働力は足りない。そういう時代背景の中、人材を育て、労務環境を改善することは、企業の責務だと思います。私は2016年に息子の俊之に事業承継しましたが、彼はとても前向きにこの課題に取り組んでいます。

父や私の世代はやはり、腕のいい一部の社員頼りなところがありました。今後は営業・設計・加工・配送・バックヤードまで、全部署が連携して業務を回すべきでしょう。

顧客満足を高めるとともに、社員が豊かなライフプランを描ける環境を整えば、人材も集まる。そういう会社になって、地域の未来を末永く支えてほしい。その願いを、次代に託しています。



与野イオンに隣接する社屋。資材はすべてここで搬入・搬出され、県内や東京の現場に運ばれていく。



精密さと頑丈さが求められる水道管や継手が、目に見えないところで日常を支えている。